

**レイチェル・ブルース博士**

***Dr Rachel Bruce***

**英国研究イノベーション機構（UKRI）オープンリサーチ部長**

***Head of Open Research, UK Research and Innovation (UKRI)***



## **略歴**

ブルース博士は英国情報システム合同委員会（Jisc）、ビジネス・エネルギー・産業戦略省（BEIS）を含む数々の国家機関で研究ポリシーとデジタル・スカラシップに携わり、現在は英国研究イノベーション機構（以下 UKRI）オープンリサーチ部長を務めている。研究資料のデジタル化やデジタル・スカラシップを支えるデジタル研究基盤の開発を進める国内外のプログラムを監督し、長期間持続可能なサービスを生み出している。また「オープンリサーチデータに関する合意書」をはじめとする英国の研究データポリシーの開発に従事している。

ブルース博士はオープンサイエンスの専門家で、欧州委員会の専門家アドバイザーも務めている。また欧州オープンサイエンスクラウドガバナンス委員会の英国代表として、研究データ同盟に創設時から携わっている。

現在ブルース博士は UKRI オープンアクセスポリシーのレビューをリードしており、イノベート UK やリサーチイングランドを含む UKRI の各研究会議が一つの研究ポリシーを利用できるように整備を進めている。加えて、英国の FAIR データを扱う能力、国際基準およびオープンリサーチに報いる責任ある研究評価の開発など、UKRI のオープンリサーチ戦略を幅広く先導している。

さらにブルース博士は G7 オープンサイエンス・ワーキンググループの英国代表と、研究出版物への完全かつ即時オープンアクセスを求める国際的な取り組みを進めているプラン S 専門家グループのメンバーも務める。

## 発表の概要

英国のオープンサイエンスに対する取り組みを、特に出版物へのオープンアクセス、オープンリサーチデータ、オープンな文化の 3 つの観点から発表する。講演では、最近の UKRI オープンアクセス政策のレビューおよび研究論文・モノグラフへのアプローチの概要を紹介する。また研究の公正性・共同研究・イノベーションをサポートするために研究データを共有する政策の方向性と、実現するための人材育成・基盤への投資に触れ、最後に研究の報酬とインセンティブの改革によってオープンで透明性かつ影響力のある研究を実現するための重要な柱について述べる。

UKRI は責任ある研究評価という手法で、英国内外のステークホルダーとオープンサイエンスを追求している。

オープンサイエンスの恩恵はパンデミックにおいて多く見受けられている。その中で得られた教訓、特に急速な研究の共有と共同研究をサポートし、研究データが可能な限りオープンで十分に安全であることは優先課題であると断言できる。パンデミックで生まれたいくつかの新たな優先課題について、その経験をもとに振り返る。